

hot topics

危険を再認識して安全に

高齢のドライバーや歩行者の悲惨な事故をなくすため、12月1日に高齢者交通安全大会が開かれました。これは市や小郡自動車学校、小郡警察署、県交通安全協会、ダイハツ工業、JR九州が官民連携で開催したもので、約60人が参加しました。

安全運転サポート車の試乗では、自動ブレーキ機能やペダルの踏み間違いによる急発進の抑制機能を体験。模擬踏切を使って、踏切内に閉じこめられたときに事故を防ぐ方法も学びました。

道路横断に潜む危険を楽しく学べる寸劇も上演され、交通安全のために普段の行動を見直すきっかけとなりました。



hot topics

遊んで・食べて鴨づくし

市や関係団体は毎月22日を「鴨の日」と定め、鴨のまち小郡の認知度アップを進めています。11月22日はイオン小郡店でイベント「かもんちゃん縁日」を開催しました。

鴨のまちのPRキャラクター「かもんちゃん」のグッズやお菓子の販売、キーホルダーを手作りできるコーナーなど、お祭り気分を味わえるこのイベント。子どもたちには射的が大人気で、家族や友だちと作戦を立てながらお目当ての的を狙う姿が印象的でした。

鴨を使った総菜や弁当の試食・販売もあり、家族みんなで鴨を楽しむ1日となりました。



hot topics

憧れの元プロ選手が目の前に！

元プロ野球選手らが指導する「第31回シグマイン全国少年少女野球教室」が12月6日に開かれ、小郡市や近隣の野球・ソフトボールチームに所属する小中学生およそ500人が集まりました。

豪華講師陣は元プロ野球選手17人と、シドニー五輪で銀メダル獲得のソフトボール女子日本代表の元選手2人。10人～50人ずつ分かれた各グループに講師がつき、前半は守備、後半は打撃の指導を受けました。テクニックだけでなく、上達のための思考法やけがをしないためのストレッチなども教わり、参加者は熱心に聞き入っていました。（写真は元西武ライオンズ・石毛宏典さん）



hot topics

選ばれる返礼品をめざして ふるさと納税の事業者勉強会

市はふるさと応援寄附金（ふるさと納税）の寄附者に対し、市の特産品などを返礼品として送っています。この返礼品を取り扱う事業者の勉強会を11月25日に開催し、市内の23事業者が参加しました。

勉強会では、返礼品に関するルールの改正やトレンド情報を共有し、事業者同士の情報交換会も実施しました。参加者が生産する農産物を別の参加者が加工し新商品を開発するアイデアも出され、期待が膨らむ交流の時間となりました。





hot topics

社会を明るくする運動 作文コンテストで12人入賞

犯罪や非行を防止し立ち直りを支える社会をめざす「社会を明るくする運動作文コンテスト」の表彰式が、12月10日に行われました。小中学生から823編の応募があり、そのうち12作品が受賞しました。最優秀賞の受賞者を紹介します。

【小学生の部】大島綜一郎さん(麻生学園小6年)
「思いやって助け合う」※最前列左から2番目

【中学生の部】大里向正さん(三国中1年)
「社会を明るくする運動」※最前列右から2番目



hot topics

5回目のおごおり冬まつり

12月7日、おごおり冬まつりと駅前イルミネーションの点灯式が行われました。5回目となる今回の冬まつりは、ラムネの早飲み大会やビンゴ大会など毎回人気の企画に加え、ご当地ヒーロー「ドゲンジャーズ」の登場など初めての企画も行われました。

夕方には会場全体のカウントダウンで駅前の「きらめきの塔」周辺にイルミネーションが点灯し、冬日和の西鉄小郡駅前通りは多くの来場者でにぎわいました。

イルミネーションは2月14日(土)まで毎日17時半～24時に点灯します。



hot topics

小さな子どもも大活躍！ クリスマスコンサート

12月20日にイオン小郡店でクリスマスコンサートが開催され、延べ500人が来場しました。

過去最多となる38人が、クリスマスにちなんだ曲や童謡などをピアノで演奏。また、サンタクロースに扮した10人の「ちびっこアナウンサー」は、進行役として演奏者の紹介やインタビューに挑戦しました。

出演者は「小さな子どもが一生懸命に紹介してくれて嬉しかった」「ドキドキしたけど、また来年も出たい」などと笑顔いっぱいに話しました。



hot topics

小郡中PTAが県教育文化表彰受賞

県教育文化表彰を受賞した小郡中学校PTAが、12月9日に市長を訪問し受賞を報告しました。

同会は「人権のまちづくり」の視点から、講演会や懇談会などを開催しています。また、保護者自身が工夫をこらして子どもたちのためのイベントを多数開催し、これらの取組を小郡小学校PTAと連携して行っていることも評価されました。

大澤靖浩会長は「PTAとして活動できるのは子どもが在校しているわずかな期間。地域全体で子どもたちを見守り世代を超えた校区のつながりを作るため、これからも学校や地域と連携して活動していきたい」と話しました。

